

母性看護学実習

1. 目的

母性の対象及び新生児とその家族を理解し、対象に応じた看護ができる基礎的能力を養う。

2. 目標

- 1) 生命の誕生に関わることを大切にし、相手を尊重した態度をとることができる。
- 2) 産褥期の身体的、精神的、社会的変化および新生児の正常な経過を理解できる。
- 3) 健康な対象であることをふまえた妊産褥婦及び、新生児とその家族を含めたアセスメントを行い、必要な看護援助を計画、実践できる。
- 4) 褥婦および新生児の状態を捉え、看護援助を安全に実践できる。
- 5) 母子を支える保健医療福祉の実践について理解し、チームの一員として望ましい行動がとれる。
- 6) 看護学生として主体的に取り組むと共に、看護の体験と学習を結びつけ、母性(父性)意識を発展させることができる。

3. 実習構成

母性看護学実習	時間数(単位)		実習施設
	90 時間 (2 単位)	39.5 時間	学内
		19.5 時間	ウパウパハウス岡本助産院 さくらバース とわ助産院 みどり助産院 みやした助産院 めぐみ助産院 いなだ助産院 豊倉助産院
		31 時間	茅ヶ崎徳洲会病院 前村医院

4. 患者選定条件

分娩期もしくは産褥期の母子、または帝王切開術後の母子

5. 実習目標に関する学習内容

目標 1 生命の誕生に関わることを大切にし、相手を尊重した態度をとることができる。

行動目標	学習内容	学習方法
1. 相手を尊重した言葉づかいや行動をとることができる。	1) 妊・産・褥婦と新生児、その家族の理解 ①マタニティサイクル・ 女性のライクサイクル ②発達段階(エリクソン)	・助産所や病院における妊・産・褥婦やその家族とのかかわり ・分娩の見学(カンファレンスで情報共有)
2. 妊娠・出産・育児の喜びを対象や家族と分かち合うことができる。	2) 妊娠・出産・育児に対する対象やその家族の思い 3) 母子関係の形成過程 4) 対象の育児行動獲得 5) 児へのアタッチメント 6) 対象と家族への倫理的配慮	・陣痛緩和の援助や家族への声掛け ・妊婦の援助の見学、実施 ・褥婦への援助の見学、実施 ・児への援助の見学、実施 ・集団指導でのかかわり

目標 2 産褥期の身体的、精神的、社会的変化および新生児の正常な経過を理解できる。

行動目標	学習内容	学習方法
1. 褥婦の退行性変化・回復状態が理解できる。	1) 妊娠、分娩、産褥の経過	・事前学習の活用
2. 褥婦の進行性変化が理解できる。	2) 退行性変化、全身の回復過程	・分娩の見学、分娩直後の援助の見学
3. 褥婦の心理・社会的変化が理解できる。	3) 進行性変化	・分娩見学ができた場合はカンファレンスでチームメンバーと情報共有
4. 新生児の子宮外生活への適応過程が理解できる。	4) 母子の健康状態	・分娩記録からの情報収集
	5) 育児への認識	・看護記録、診療録からの情報収集
	①育児行動	・対象やその家族とのコミュニケーション
	②母子相互作用	・診察、授乳場面の見学
	③ルービンの母性行動愛着形成	・褥婦への援助の見学、実施
	④育児不安	・受け持ち以外でも可能であれば分娩直後の新生児の観察、援助の見学
	6) 母親役割	・新生児への援助の見学
	7) 家族の受け入れ状況	・新生児への援助の実施は全て教員または指導者のもと実施
	8) 新生児のバイタルサイン、全身観察	
	9) 成長・発達状態の観察	
	10) 哺乳・排泄状況	
	10) 新生児の生活環境	

目標 3 健康な対象であることをふまえた褥婦および新生児とその家族を含めたアセスメントを行い、必要な看護援助を計画、実践できる。

行動目標	学習内容	学習方法
1. 妊娠・分娩期の情報を活かし、学習した知識と統合した褥婦のアセスメントができる。	1) 妊娠、分娩、産褥の経過	・事前学習の活用
2. アセスメントから導き出された褥婦の具体的な看護援助が立案、実施できる。	2) 退行性変化、全身の回復状態の観察、援助	・授乳指導の見学
3. 妊娠・分娩期の情報を活かし、学習した知識と統合した新生児のアセスメントができる。	3) 進行性変化、授乳状況の観察と援助	・沐浴指導の見学、実施
4. アセスメントから導き出された新生児の具体的な看護援助が立案、実施できる。	4) セルフケア行動を促す援助	・保健指導の見学
	5) 心理的变化、母親への適応状態	・褥婦の診察の見学
	6) 育児行動	・対象と児、家族とのかかわり
	7) 家族の適応過程	・対象の疲労・休息状況を考慮し、指導者の確認のもと援助を実施する
	8) 出産後の生活の変化	・新生児の診察、検査、与薬の見学
	9) 社会環境、社会資源の活用	・新生児への援助は全て教員または指導者のもと実施する
	10) 子宮外生活の適応状態	・見学や援助の実施、記録物などから得た情報を整理し、ウェルネスの志向でアセスメントを行う
	11) 身体の発育状態、成熟状態	・アセスメントから看護計画を立案し、援助を実施する
	12) 精神、運動発達状態	
	13) 妊娠・分娩経過の影響	
	14) 栄養状態	
	15) 養護の状態	
	16) 母子相互作用を促す援助	
	17) 父子関係、家族関係	
	18) 生活環境	
	19) プライバシーや羞恥心への配慮	
	20) 新生児への援助の実施	

	①バイタルサイン測定 ②全身観察 ③おむつ交換 ④抱っこ ⑤沐浴 ⑥哺乳 ⑦環境の調整	
--	---	--

目標 4 褥婦および新生児の状態を捉え、看護援助を安全に実践できる。

行動目標	学習内容	学習方法
1. 褥婦への看護援助を計画に沿って安全に実施できる。	1) 褥婦の健康状態、回復状態の判断	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習の活用 ・援助の見学、実施 ・カンファレンスでの意見交換 ・実施した援助について教員、指導者と共に振り返り、計画の修正を行う
2. 新生児への看護援助を計画に沿って安全に実施できる。	2) 新生児の健康状態の判断	
3. 実施した看護援助を評価し、看護計画の修正できる。	3) 感染予防	
	4) 安全な援助方法	
	5) 環境の調整	
	6) 倫理的配慮	

目標 5 母子を支える保健医療福祉の実践について理解し、チームの一員として望ましい行動がとれる。

行動目標	学習内容	学習方法
1. 褥婦及び家族に必要な保健指導を日々の援助の中で考えることができる。	1) 対象に必要な看護援助	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習の活用 ・対象への保健指導の見学 ・助産所での援助の見学や一部実施 ・可能であれば母親学級や両親学級への参加 ・カンファレンスでの情報共有 ・事前オリエンテーション、実習要項の参照、教員や指導者への指示を仰ぎ、学生としての対応を確認する
2. 妊産褥婦への保健指導・継続看護の実践がわかる。	2) 妊婦健診	
3. 地域における助産所の役割を考えることができる。	①レオポルド触診法	
4. 看護学生や看護チームの一員として責任ある行動がとれる。	②子宮底長、腹囲測定	
	③胎児心音の確認	
	3) 妊婦生活指導	
	4) 授乳指導	
	5) 育児指導	
	6) 沐浴指導	
	7) 退院指導	
	8) 母乳外来、母乳トラブルへの対処法	
	9) 地域における助産所の役割	
	10) 多職種連携、社会資源	
	11) 診察時のプライバシーや羞恥心への配慮	
	12) 適切なタイミングや方法での報告・連絡・相談	
	13) チームの一員として周囲の影響を考えた態度	
	14) 自己の健康管理と適切な対処行動	
	15) 個人情報の適切な管理	

目標 6 看護学生として主体的に取り組むと共に、看護の体験と学習を結びつけ、母性(父性)意識を発展させることができる。

行動目標	学習内容	学習方法
1. 常に疑問を持ち、その解決に向けて主体的に学習する態度がある。	1) 事前学習への取り組み方 2) 適切な助言、指導の受け方 3) 生命への尊厳、生命倫理	・事前オリエンテーション ・カンファレンスの活用 ・日々の指導者や教員からの指導
2. 助産所・病院実習の中で分娩見学、母子や家族との関わりを通して、感じたこと、考えたことを自己の母性(父性)観としてまとめることができる。	4) 出産に対する対象や家族の思い 5) 母親、父親役割 6) 両親への感謝の気持ち	・分娩見学やカンファレンスでの情報共有、日々のかかわりからレポートとして母性観、父性観についてまとめる レポートテーマ 「自己の母性観・父性観」 文字数:1200 字

6. 実習の進め方

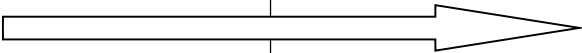
【病棟実習】

曜日	月	火	水	木
時間	8:15～16:00	8:15～17:00	8:15～17:00	8:15～17:00
予定	病棟オリエンテーション ・病棟の概要 ・使用物品の場所、取り扱い方法 ・記録物の見方、管理方法 受け持ち母子の決定 ・挨拶、同意書 情報収集、援助の見学 コミュニケーション バイタルサインの測定、観察 分娩見学	情報収集 褥婦への援助の見学、実施 新生児への援助の見学、実施 ・保健指導の見学 ・分娩見学、一部実施 午後 情報の整理・分析・解釈 看護計画の立案 保健指導や分娩見学があれば行う	看護計画の実施、評価	看護計画の実施、評価 評価面談
CF	実習の自己目標と課題	グループでテーマを決定		実習の振り返りと自己の課題
記録	リフレクションシート、母性看護学実習記録用紙 I -①②、様式 1-1	母性看護学実習記録用紙 I -①②、様式 1-2、2、6	様式 2、5、6 評価表の提出	様式 2、6、7 評価表

【学内実習】

曜日	月	火	水	木	金
時間	8:30～17:00	8:30～17:00	8:30～17:00	8:30～17:00	
予定	病棟実習の事例を用いての保健指導の計画立案 ・母乳育児指導 ・退院指導 ・沐浴指導 ・心理、社会的指導			沐浴指導実施、評価 指導計画の修正	9:00 記録提出 グループでまとめて 担当教員へ提出
CF	なし	なし	指導計画について	沐浴指導の振り返り	
記録	様式 6	様式 6	様式 6	様式 6、7	

【助産所実習】

曜日	月	火	水	木
時間	9:00～16:15	9:00～16:15	9:00～16:15	8:30～13:45
予定	助産所のオリエンテーション ・助産所の概要 ・記録物の見方、管理 ・妊婦健診の見学 ・保健指導の見学 ・産褥ケアの見学 ・分娩の見学 ・母乳ケアの見学 ・新生児、乳児の観察			学内実習 13:45 記録提出 グループでまとめて担当教員へ提出
CF	グループでテーマを決定			助産所実習の実際と地域における役割
記録	見学実習記録	見学実習記録	見学実習記録	見学実習記録

7. 実習評価表 実習期間： 年 月 日 ～ 年 月 日 実習施設：
 実習期間： 年 月 日 ～ 年 月 日 実習施設：
 実習期間： 年 月 日 ～ 年 月 日 実習施設：
 実習グループ G 学籍番号 学生氏名

	評価項目	自己評価	教員・指導者 評価
目標 1	1. 相手を尊重した言葉づかいや行動をとることができる。		
	2. 妊娠・出産・育児の喜びを対象や家族と分かち合うことができる。		
目標 2	1. 褥婦の退行性変化・回復状態が理解できる。		
	2. 褥婦の進行性変化が理解できる。		
	3. 褥婦の心理・社会的変化が理解できる。		
	4. 新生児の子宮外生活への適応過程が理解できる。		
目標 3	1. 妊娠・分娩期の情報を活かし、学習した知識と統合した褥婦のアセスメントができる。		
	2. アセスメントから導き出された褥婦の具体的な看護援助が立案、実施できる。		
	3. 妊娠・分娩期の情報を活かし、学習した知識と統合した新生児のアセスメントができる。		
	4. アセスメントから導き出された新生児の具体的な看護援助が立案、実施できる。		
目標 4	1. 褥婦への看護援助を計画に沿って安全に実施できる。		
	2. 新生児への看護援助を計画に沿って安全に実施できる。		
	3. 実施した看護援助を評価し、看護計画の修正できる。		
目標 5	1. 褥婦及び家族に必要な保健指導を日々の援助の中で考えることができる。		
	2. 妊産褥婦への保健指導・継続看護の実際がわかる。〈助産所実習〉		
	3. 地域における助産所の役割を考えることができる。〈助産所実習〉		
	4. 看護学生や看護チームの一員として責任ある行動がとれる。		
目標 6	1. 常に疑問を持ち、その解決に向けて主体的に学習する態度がある。		
	2. 助産所・病院実習の中で分娩見学、母子や家族との関わりを通して、感じたこと、考えたことを自己の母性(父性)観としてまとめることができる。 (評価基準 10:達成 6:一部達成 2:未達成)		
学生コメント		指導者コメント	
		サイン	
		教員コメント	
自己評価合計点		サイン	
欠席合計時間		総合評価点	
時間 分		サイン	

評価基準 5:達成 3:一部達成 1:未達成